

# 平成23年度事業報告書

平成23年6月1日から平成24年5月31日まで

特定非営利活動法人東上まちづくりフォーラム

## 1. 事業の成果

平成23年度は、企業OB層が地元中小企業を支援するモデルを中心とした「ビジネス助っ人隊」の事業から、地域支え合い事業等の福祉関連事業、ととく市民大学等の地域住民との交流を目指した事業へと、より幅広い活動へ乗り出した年度であった。

さらに、県から2つの委託事業を受けることに成功し、東上まちづくりフォーラムの信頼の高さを示すことができた。今後の諸活動とのに相乗効果が期待できる。

### (1) 地域資源の再発見と人材開発の場の提供

23年度、東上まちづくりフォーラムの多くの会員が関わり、もっとも活動量が多かった案件は、「参加体験型地域力アップ事業」である。これは埼玉県南西部地域振興センターからの公募に応じて提案を出し、それが採択されたものであるが、具体的な参加体験型事業としては、以下の6つの事業を行った。

- ①地域を知ろう！ワールドカフェ
- ②高齢者支援フォーラム
- ③震災対応型：安心・安全社会形成フォーラム
- ④地元を歩いて見て知り食べる体験教室
- ⑤グローバル地域人のコミュニケーション・サロン
- ⑥市民大学の相互交流
- ⑦町内会役員を主たる対象とした「地域の絆と住まい」交流展の開催

また、それと並行して、南西部地域振興センターの声掛けで始まった「埼玉県南西部NPO連絡会」の事務局活動や、地域住民が集い、コミュニケーションできる場の設定などを行った。

上記の事業自体は、平成24年3月ですべて終了したが、そのなかのいくつかの事業は、その後も東上まちづくりフォーラム内でチームが継続しており、今後の活動が期待される。(例えば「地域の絆プロジェクト」やグローバル地域人のコミュニケーション・サロンから立ち上がった「世界村プロジェクト」など。)

直接的に、上記事業が引きつがれたものではないが、東上まちづくりフォーラムに新たに発足した「防災チーム」も、上記「参加体験型地域力アップ事業」内の「震災対応型：安心・安全社会形成フォーラム」が実施されたことをうけて、そこで縁ができた防災グッズの企業とも連携しつつ、地域に密着した防災（啓蒙）イベント等を開催していく、という事を意図したチームである。

昨年度の事業計画書でうたった「各専門助っ人隊の組織運用体制を強化し、専門助っ人隊相互の連携、プロジェクト活動との連携をとりあい、相乗効果が発揮できるよう取り組む」といった項目については、上記のような連携ができたことをその成果の一つとして挙げたい。

事業計画では、「将来の案件獲得を目指し新規事業を研究し、先行投資としての活動資金を提供する」も掲げたが、これについては、ビジネス助っ人隊から立ち上がり、20万円のインキュベーションフィーも東上まちづくりフォーラムより支給された「学校助っ人隊」が今期で終了した。多くの小中学校に営業を掛けたが、「すでに同様の商品（防犯用の情報システム）を導入している学校が多かった」、「今一つ信頼を得る事ができなかった」等の理由で、残念ながら当所想定した十分な成果は得られず、終結に至ったものである。新規事業に先行投資はしたものの、それが実を結ばなかった事例であり、今後の反省材料である。

「顧客獲得のための広報宣伝活動、隊員増のための啓蒙活動を充実する」は、本年度だけの課題ではないが、今年度については、上記の「参加体験型地域力アップ事業」を通じて、東上まちづくりフ

フォーラムの地域内での知名度は大きく向上したと考えている。但しそれが大幅な会員増（ビジネス助っ人隊の隊員増）には、つながらなかった点は課題として残った。

その他、ビジネス助っ人隊としての活動としては、従来から継続して行っている地元中小企業向けの経営サポート業務、それに新しく始まったものとして、職業訓練校の講師業務があった。後者については、求職者を対象とした公的な職業訓練の実施を行う地元企業から受託して、その講師を行ったというものであったが、これが本年度は、ビジネス助っ人隊としての収入のなかでの高い比率を占める業務の一つとなった。

また、ビジネス助っ人隊から立ち上がった事業として「地域資源活用商品による地域づくり推進事業」があるが、これは一昨年度からの継続事業であり、南西部地域振興センターから受託する形で行った、埼玉県との協働事業とも位置づけられる事業である。今期は、延べ6名の失業者を雇用して平成24年3月30日まで実施した。内容的には、事業の当初から行っている「ジモトのおやつ」を販売するという地域活性化のためのPR活動に加え、今期は、「高校生ラスク選手権」、「ジモトのおやつ親子探検隊」、「ラスクレシピコンテスト」などの事業を手掛け、3月には「第2回ジモトのおやつフェスタ」も盛大に開催した。なお、本事業は、平成24年4月以降も、事業成果を引き継ぐ形で、「埼玉県南西部ジモトのおやつ協議会」を、東上まちづくりフォーラムが主体的な事務局となって立上げ、今後の事業継続を図っている。

## (2) まちづくり提案とプロジェクト活動

平成22年度7月より、志木市商工会と連携して埼玉県の助成金に基づく「志木市地域支え合いの仕組み推進事業」を開始し、ほぼ2年が経過した。「お手伝い隊」の会員は、利用会員・(有償)ボランティア会員ともに100名弱になり、日々活動は増加している。理事会においては、この「地域支え合い事業：お手伝い隊」を東上まちづくりフォーラムとしての基幹事業の一つに位置付け、担当理事も任命して、さらなる発展に向けた活動を継続してきた。下記③の「にぎわいプロジェクト」との連携や、また「パソコン・IT 助っ人隊」が、「パソコン何でもサポート」という活動を利用者のニーズに合わせて随時行っているが、こうした動きとも連携をとって行っている。

「ハート・プロジェクト」では、継続して主としてパソコン・ITの分野において、障がい者の自立支援、高齢者の生きがい支援を行った。「パソコン・IT 助っ人隊」メンバーが中心となって実施しているプロジェクトである。

## (3) 住民交流の場づくり

上記②の「志木市地域支え合いの仕組み推進事業」を補完する事業として「にぎわいプロジェクト」を立ち上げ、志木市商工会等と連携しながら各種イベントを実施した。収益面でも、地域活性化の面でも、徐々に効果が出始めている。

「とくとく市民大学」は、平成22年度7月のセミナールームの完成を受け、同年9月1日に2学部（実務学部、文化学部）とサークル活動でもって開校してから、約2年が経過した。依然として受講者の数は多くはないが、地域住民との交流という意味では着実に成果を上げている。

東上まちづくりフォーラムが世話人団体となってきた『東上線NPOネット』では、そのなかに「地域雇用促進委員会」が組織され、同委員会として事業活動を始めた。東上まちづくりフォーラムの中の動きと言うよりも、別個に独立した動きとなったので、ここでの記載も行わない。東上まちづくりフォーラムとしての中間支援的なインキュベーションの役割は終えたと考えており、中間支援面での成果と考えている。

## 2. 事業報告

### (1) 特定非営利活動に係わる事業

#### ①地域資源の再発見と人材開発の場の提供

事業名称	活動内容
ビジネス助っ人隊	<p>埼玉県との協働事業として平成19年度に開始した、企業OBが地元中小企業を支援したり、自らの想いを形にしていく組織「ビジネス助っ人隊」の活動は、今年度も継続して実施した。</p> <p>2年越しで、工場に対してのアドバイスを行っている企業OBもいるし、パソコンの講師として活躍している人材も数名以上に上りようになっているが、一方コンサル系業務は今年度は少なかった。</p> <p>「にぎわい助っ人隊」が地元の「べあもーる商店街」やお寺などと連携して複数回にわたるイベントを開催し、そこでの収益を「支え合い事業＝お手伝い隊」にまわす、といった活動は回数や手順の面では軌道にとってきたが、まだ想定した利潤があげられるという所には至っていない。</p> <p>今期の特筆できる動きは、地元企業からの委託を受けて公的な職業訓練の講師業務を開始した事である。「パソコン・IT助っ人隊」メンバーが中心となってその任にあたっている。</p>
地域資源活用商品による地域づくり推進事業	<p>平成21年度、埼玉県南西部地域振興センターからの委託事業として「地域ブランド商品の開発・販路開拓事業」を手がけ、「ジモトのおやつ」の開発とその販売支援を行った。</p> <p>平成22年度4月からは、「地域資源活用商品による地域づくり推進事業」と事業名を変え、引き続き平成23年度も、同事業を南西部地域振興センターから受託して、平成24年3月30日まで実施した。今期は延べ6名の失業者を雇用して「ジモトのおやつ」の拡販につとめた。</p> <p>平成23年度は、従来からのジモトのおやつ販売するというPR活動に加え、「高校生ラスク選手権」、「ジモトのおやつ親子探検隊」、「ラスクレシピコンテスト」などの事業を手掛け、3月には「第2回ジモトのおやつフェスタ」も盛大に開催した。平成24年4月以降も、事業成果を引き継ぐ形で、「埼玉県南西部ジモトのおやつ協議会」を、東上まちづくりフォーラムが主体的な事務局となって立上げ、今後の事業継続を図っている。</p>
参加体験型地域力アップ事業	<p>具体的な参加体験型事業として、①地域を知ろう！ワールドカフェ、②高齢者支援フォーラム、③震災対応型：安心・安全社会形成フォーラム、④地元を歩いて見て知り食べる体験教室、⑤グローバル地域人のコミュニケーション・サロン、⑥市民大学の相互交流、⑦町内会役員を主たる対象とした「地域の絆と住まい」交流展の開催、を行いそれぞれ多くの参加者を集める事ができた。並行して「埼玉県南西部NPO連絡会」の事務局活動を担い、NPOフェスタや、ワールドカフェといった地域住民が集う場を作り出した。</p>

## ②まちづくり提案とプロジェクト活動

プロジェクト名称	活動内容
志木市地域支え合いの仕組み推進事業	<p>介護保険制度ではカバーしきれない生活支援などを行う「お手伝い隊」活動は、継続して拡大してきた。利用会員およびボランティア会員の数はそれぞれが100名程になっており、今後も増加が見込める。但し、県からの助成金が平成24年度までで終了するため、その後（平成25年度以降）どのような形で事業を継続して行くのか、については現在検討中である。「にぎわいプロジェクト」や「パソコン・IT助っ人隊」メンバーが行う「パソコン何でもサポート」という活動との連携なども進んでいる。</p>

<p>障がい者・高齢者 支援プロジェクト (ハート・プロジェクト)</p>	<p>障がい者の就労支援等を目的として、ホームページ制作のためのテンプレートを用意し、障がい者のスキルの現状に応じた「研修→制作→メンテ」のビジネス・モデルを用意（例：3万円ホームページ制作）し、受託事業を進めた。障がい者を支援するNPO（川口市）に対して、パソコン基礎研修を出前で提供する、という活動も今期は3回実施した。また、とくとく市民大学内にシニアを対象とした「シニアパソコン助っ人塾」を開講し、安価で分かりやすい基礎講座を実施する活動は、講座を増強する形で今期も引き続き行っている。</p>
---	--

### ③住民交流の場づくり

プロジェクト名称	活動内容
にぎわいプロジェクト	<p>コミュニティ・ビジネスとしてのプロジェクトで、地元商工会や商店街との連携により、お祭り等の各種イベント、地方製品の販売等を手がけながら、地域支え合い事業の普及とその補填財源の確保に努めている。</p>
とくとく市民大学プロジェクト	<p>平成22年9月に開設した「とくとく市民大学」は、現在1週間に20程度の講座が常時行われている形になっている。例えば、4名のシニア情報生活アドバイザーが中心となり計7、8名のチームで行っているパソコン系の講座（「初めてのパソコン講座」や「デジカメ活用講座」など）や世界村英語講座などである。</p> <p>こうした講座の情報は、講師となる会員自らが近隣に千単位でのチラシを配布するなどしてPRし、集客に努めてきている。だが、講座によっては、参加者が少なくて開講できない講座もある。</p> <p>一方で、とくとく市民大学のなかのサークル活動と位置付けている「写真俳句の会」やジャズの同好会、絵画教室などはコンスタントに参加者を増やしている。</p> <p>とくとく市民大学に関わっている会員は10数名にのぼるが、そうした、講師になる会員を中心に、このプロジェクトでは、月1回程度の会合を開き、方針を話し合ったり、教室使用の調整などを行ってきている。</p>
二水会	<p>毎月第二水曜日に、原則として東上まちづくりフォーラム事務局会議室や交流サロン（参加人数が多い場合には、とくとく市民大学レクチャールーム）にて開催。第10期に関しては10回程度の会合がもたれた。もともと東上まちづくりフォーラムの会員ではない人にも広く開放して東上まちづくりフォーラムの事を知ってもらい、会員増強に結び付けたいという意図で始まったものであるが、最近参加者もそれほど多くなく、また当所の意図ともずれてきているとの観測もあり、平成24年3月をもって同会はひとまず終了となっている。</p> <p>なお、同会は当日飲食する分を各自が持ち寄ったり、また千円程度で当日現地精算するといった方式で行ってきたため、理事会の承認も得て、決算書にはその収支を掲載していない。</p>
東上線NPOネット	<p>「東上線NPOネット」は、国や県の助成金等もうけて、独立した組織として活動できるようになったため、東上まちづくりフォーラムとしては中間支援的な意味でのインキュベーション期間は終了した、と考えている。今までは東上まちづくりフォーラムとしての活動（の一部）としてのスペース利用も行ってきたが、10期からはそれもなくなったため、決算書等にも、もう記載はない。</p>

## (2) その他の活動に係わる事業

### ①地域物品等の販売

事業名称	活動内容
ジモトのおやつ販売	前記(1) 特定非営利活動に係わる事業①地域資源の再発見と人材開発の場の提供に掲載した「地域ブランド商品の開発・販路開拓事業」において開発、収集した商品を、各種イベント及び常設店舗（あさかホット茶屋、かっぱふれあい館、JAの農産物直売センター等）において販売（仕入れ販売）した。

### ②中小企業、非営利活動法人の経営支援

事業名称	活動内容
営業助っ人隊及び コンサル助っ人隊	営業助っ人隊は顧客企業との接点づくり及び企業の営業支援を担当し、コンサル助っ人隊や他の助っ人隊との有機的な連携により、個別案件の発掘と小企業、NPOの経営支援を行った。 継続的な企業のつながりができ、比較的安定して事業収入を得ることができた。 さいたま新都心のさいたまスーパーアリーナで開催された「ビジネスアリーナ 2012」に単独出展、NPOの知名度を向上させるとともに、クライアントのPR代行も行った。